| 質問順位 | 7 | 質問者 | 藤田哲也 議員 |
|---|---|---|---|

| 件名 | 項目 | 要旨 | メモ |
|---|---|---|---|
| 1．行政運営 | 1.EBPMの導入による政策立案プロセスの変化と今後の展開について | 1．本市では、令和６年度にEBPM導入のための業務委託を実施し、モデル事例の構築に取り組まれたが、業務委託により構築されたモデル事例の対象分野・施策と分析手法の概要、従来と比べた政策立案プロセスの変化と令和７年度予算編成への反映状況、さらに職員による自走化体制の構築状況と今後の展開分野・効果検証の継続方針について伺う。 | |
| | 2．見えない負債への対応と財政健全性の真の確保について | 1．市債や将来負担比率といった“見える負債”だけでなく、インフラ老朽化や人口減少による将来的な“見えない負債”にも備える必要がある。本市は、こうしたリスクも含めた広い意味での財政の健全性と、市民との信頼関係をどのように維持・強化していくのか考えを伺う。 | |
| | 3．市の組織硬直化と人材配置の柔軟性の確保について | 1．本市では、事業縮小により業務量が減少した部署がある一方で、人材不足により年度末近くまで採用募集を行う部署も見られる。限られた人的資源で市民サービスの質を維持するには、業務量に応じた柔軟な人材配置が不可欠だが、現状は組織の硬直化により効率的な配分ができていないと考える。そこで、このような人材配置のアンバランスと組織硬直化の要因をどう分析し、縦割り組織を超えた柔軟な人材再配置や定期的な業務量検証システムなど、組織改革に向けた具体策をどのように考えているのかを伺う。 | |
| | 4．財政制約下における公共サービスの優先順位と市民参加型合意形成について | 1．限られた財源の中で、どのような公共サービスを維持し、どこにまちづくりの重点を置くかは、市民社会の合意に基づくべきだと考える。本市は、市民とともに“持続可能な公共”をどのように描き、どのような対話・合意形成の仕組みを構築するのか、考えを伺う。 | |